

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 138 号

平成 29 年 5 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒4888885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.jp/>

## C型肝炎について

消化器科主任部長 小笹 貴士



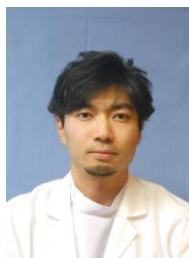
C型肝炎治療は2014年からインターフェロン(IFN)フリー治療が開始され、その後次々と新薬が登場しSVR(sustained viral response)率はほぼ100%近くになっています。IFNとは異なりほとんど副作用もなく、若干の注意(Ca拮抗薬の内服、腎機能障害の有無など)をすればほぼどのような患者さんでも治療可能となりました。実際今まではIFNがいやで治療を拒否していた患者も積極的に治療を受ける様になっています。しかし、国内では未だ肝炎ウイルス検査を受検していないC型肝炎患者が約30万人、陽性と指摘されたのに受診していない患者が約25万~75万人、新規患者が3.3万人存在するといわれています(田中純子:肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究、平成26年度総括)。これら未治療患者を拾い上げるためには医師、看護師を含めた医療従事者からの積極的な声かけが必要と思います。

また、治療によりSVRが達成されると、肝発癌リスクは有意に低下します。しかし、完全にはリスクが消失する事はなく、たとえばIFN治療によるSVR後の5年、10年後の発癌率はそれぞれ2.3-8.8%、3.1-11.1%と報告されています。このことはウイルスが排除されても健常者に比べ発癌リスクの高い状態が長時間続く事を示唆しています。SVR後の発癌リスク因子としては肝線維化、高齢、男性、アルコール摂取、脂肪肝化、糖尿病、治療後AFP高値などがあげられています。しかし、SVR後のフォローアップをどのように、いつまで行っていくのかは決められていません。わが国におけるSVR症例562例からなるコホートを解析した後ろ向き研究では、定期的肝臓スクリーニング(腹部超音波を少なくとも6か月毎)を受けていた症例の5年生存率が93%であったのに対して、受けてない症例では60%と予後不良でした。SVR後における肝臓スクリーニングの効果的な方法や有用性を前向きに直接検討した報告はなく、費用対効果も不明ではありますが、患者背景(年齢、ADL)やリスク因子の有無(特に肝線維化)などを考え、個々判断しながらできるだけフォローアップしていく必要があると思います。

肝炎の拾い上げのため、肝機能異常を診たときは「肝炎の検査をしたことありますか?」と一声かけてみてはいかがでしょうか。また、「この人透析中だけど治療できるのかな?」、「高齢だけど元気だし治療できるのかな?」、「肝炎だけは治療後のフォローをお願いできないかな?」等お困りのことがあれば、いつでもご紹介いただければ幸いです。

# 鼻呼吸障害について

耳鼻咽喉科副部長 清水 崇博



鼻呼吸とは、外鼻孔から鼻腔を通り、咽頭、喉頭、気管を介して行う呼吸のことで、その役割としては、吸気の加温・加湿・浄化作用などによる下気道の保護があります。安静時呼吸時に 22.5℃の外気圧は鼻腔通過時には 33.4℃まで加温され、吸気における相対湿度は 75～90%まで加湿されると報告されています。また、径が 15 $\mu\text{m}$  以上の粒子のほとんどすべてが、4.5 $\mu\text{m}$  以上のものはその 85%が鼻粘膜上の粘液層により吸着され、繊毛により咽頭に運ばれます。ちなみにスギ花粉は 30 $\mu\text{m}$ 、ダニ糞粒は 10 $\mu\text{m}$  以上なので、ほとんどが鼻腔で吸着されていることとなります。それに加えて、呼吸抵抗による換気に最適の呼吸リズムや深度調節などがあります。

鼻呼吸障害とは、上記のような生理的な鼻呼吸がなんらかの理由で障害され、口呼吸を余儀なくされている状態をいいます。鼻呼吸障害は、局所から全身までさまざまな影響を及ぼすことが指摘されています。

- ・口腔 咀嚼効率の低下、唾液の自浄作用の低下による虫歯、歯周病
- ・咽喉頭 咽頭腔の狭窄による閉塞性睡眠時無呼吸症候群
- ・下気道 肺炎、誤嚥性肺炎
- ・睡眠 不眠、眠気、閉塞性睡眠時無呼吸症候群
- ・精神 集中力の低下、抑うつ症状

鼻呼吸障害をきたしうる主な疾患には、慢性副鼻腔炎、なかでも難治性の好酸球性副鼻腔炎、花粉症などのアレルギー性鼻炎、市販の血管収縮薬の点鼻薬を長期連用することによる薬剤性鼻炎、鼻中隔湾曲症、小児のアデノイド増殖症、鼻副鼻腔腫瘍などが挙げられます。原因を診断し治療を行うことで、鼻呼吸障害による影響や QOL の改善も期待できる可能性があります。当院では画像検査、保存的治療や外科治療を幅広く行っております。

今年度から耳鼻咽喉科常勤医が 2 名となりましたので、手術治療も行える体制も整えております。「鼻づまり」でお困りの患者さまがみえましたら、いちど当院へご紹介いただければ幸いです。

# 新任医師あいさつ



病理診断科部長  
おの けんぞう  
小野 謙三

初めまして。4月より病理診断科に赴任しました小野 謙三と申します。昭和53年に信州大学を卒業し、29年間、公立陶生病院病理診断科に病理医として勤務しておりました。この度、大変良い御縁があり、当院に勤めさせていただくことになりました。出身は瀬戸市ですが、20年以上尾張旭市に住んでおります。故郷の病院で勤めた後、日ごろお世話になっている地域に少しでもお役に立てる機会を与えて頂いた事は本当にありがたいと思っております。当院では初の病理診断科開設となりますが、「病理があつて良かった」と言われるように、微力ながら頑張りたいと思います。不慣れなためご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



循環器科副部長  
あきた のぶかつ  
秋田 展克

初めまして。このたび旭労災病院循環器科に着任いたしました秋田展克と申します。平成13年に名古屋市立大学を卒業し、市立大学病院で研修ののち、総合大雄会病院、名古屋市立東部医療センターに勤務、その後、名古屋市立大学院細胞生物学でHDL代謝の第一人者でいらっしゃる横山信治教授のご指導のもと脂質代謝についての研究をさせていただきました。臨床復帰後は、名古屋市立大学病院、岐阜県立多治見病院を経て、旭労災病院にて勤務させていただくこととなりました。

これまでの診療経験や医学的知識を生かして地域医療に貢献できたらと思います。まだまだ未熟な点もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



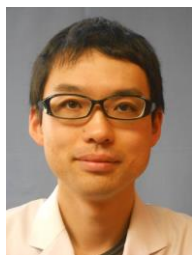
内科医師  
てらしま よしゆき  
寺島 良幸

初めまして。本年4月より内科に着任いたしました、寺島良幸と申します。平成20年に名古屋市立大学を卒業し、刈谷豊田総合病院、名古屋市立大学で麻酔、救急、集中治療医として働いておりました。急性期をみることに重きを置いた仕事をして来ましたが、長期的に患者さんや家族と向き合うことに魅力を感じこの度旭労災病院で内科医として勤務させて頂くことになりました。新しい仕事や職場で慣れない点も多くありますが気持ちを新たに頑張っていきたいと思っております。未熟な点が多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



外科医師  
いしい けんた  
石井 健太

本年4月より旭労災病院外科に着任いたしました石井健太と申します。平成21年に名古屋大学を卒業し、豊橋市民病院で2年間の初期研修、3年間の一般外科後期研修ののち、大阪府泉州救命救急センターで3年間の救急診療を経験させていただきました。今回3年ぶりに一般外科の診療に戻りましたので、外科医として未熟な点、不慣れな点が多いことを痛感しております、一日も早く習熟できるよう力を尽くしたいと思います。また、これまで経験させていただいたことも生かして当地域の医療に貢献できたらと考えております、何卒よろしくお願いいたします。



呼吸器科医師  
くろかわ りょうた  
黒川 良太

平素より大変お世話になっております。4月より旭労災病院呼吸器内科に着任致しました黒川良太と申します。平成22年に名古屋市立大学医学部を卒業し、名古屋市南区にございます社会医療法人宏潤会大同病院で2年間の初期研修の後、呼吸器内科医師として同院で3年間、愛知県弥富市にございますJA愛知厚生連海南病院で2年間の勤務をして参りました。これまでの経験も生かして、当地域の医療に貢献出来るように日々精進して参ります。まだまだ未熟でありますゆえご迷惑をおかけすることも多いかと存じ上げますが、どうかご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



消化器科医師  
きむら みきとし  
木村 幹俊

初めまして。本年4月より消化器科に着任となりました木村幹俊と申します。愛知医大を卒業後、同附属病院、春日井市民病院を経て、旭労災病院にて勤務させていただくこととなりました。まだまだ未熟者で不慣れなことも多く、至らぬ点多々あると思っておりますが、地域医療に貢献できるように精進してまいります。なにとぞ宜しくお願い致します。



耳鼻咽喉科医師  
かわで ゆか  
川出 由佳

初めまして。本年4月より耳鼻咽喉科に着任いたしました川出由佳と申します。平成26年に愛知医科大学を卒業し、同大学病院で2年間の初期研修を修了後、愛知医科大学病院耳鼻咽喉科で1年間の後期研修を行ってまいりました。そしてこの度、旭労災病院耳鼻咽喉科に勤務させていただくこととなりました。まだまだ未熟者であり、不慣れな点も多く、皆様に多々ご迷惑をお掛けすることもあると思っておりますが、少しでも早く当地域の医療に貢献できるよう日々精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



研修医  
みくら こうたろう  
三倉 康太郎

平素よりお世話になっております。  
この度旭労災病院初期研修医となりました三倉康太郎と申します。  
平成27年に愛知医科大学を卒業しました。  
医師としてまだ何もできない未熟者ですが、病院のみならず地域医療に少しでも貢献出来るように励んでいきたいと思っております。  
皆様にはなにかとご迷惑をおかけしますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 訂正とお詫び

旭労災病院ニュース137号の循環器科副部長の秋田展克医師の卒業年数に誤りがありました。

(誤) 平成22年3月名古屋市立大学卒 → (正) 平成13年3月名古屋市立大学卒  
大変申し訳ありませんでした。